

会 議 録

会議の名称	長期計画審議会（第5回）
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係
開催日時	平成27年7月13日(月)午後6時～午後8時20分
開催場所	市民会館3階 萌え木ホール A会議室
出席者 (13人)	会長 渡邊 嘉二郎 委員 職務代理者 高橋 雅栄 委員 委員 久保 節紀 委員 中村 裕子 委員 竹之内 一幸 委員 鉄矢 悦朗 委員 今井 啓一郎 委員 上原 和 委員 志田 尚紀 委員 本木 治子 委員 福元 弘和 委員 杉山 薫 委員 河野 律子 委員
欠席者 (3人)	渡邊 智子 委員 岡本 鮎実 委員 谷本 俊哉 委員
事務局	企画政策課長 水落 俊也 企画政策課長補佐 中田 陽介 企画政策課係長 廣田 豊之 企画政策課主任 工藤 真矢 有限責任監査法人トーマツ 堀井 敬太
傍聴の可否	○ 一部不可 不可
傍聴者数	1人
<p>【会議次第】</p> 1 「こがねいまちづくり カフェ」（市民懇談会）を終えて 2 長期計画審議会からの意見に対する後期基本計画（案）への反映について 3 その他 <p>【会議結果】</p> 1 「こがねいまちづくり カフェ」（市民懇談会）を終えて 《資料18》 ○参加した委員からの感想 ・楽しく参加させてもらった。時間内によく収まっていたとは思いますが、前向きな参加者（積極的に発言される市民）が多かったため、事前に資料などを配付しても良かったかもしれない。 ・みなさんの意見はそんなに乖離がなかった。小金井市に対する印象やどう変えていきたいというのは共通点が多かった。 ・前向きな方が多かったので参加してよかった。出た意見としては、小金井はいいところだという意見がほとんどで、悪い点は聞けなかったのが嬉しかった。	

- ・初めての割にはみなさん積極的に発言してくれて、成功したのではないかと印象を受けた。
- ・市民のみなさんがそれぞれの声を聞くよい機会ではあったと思うが、個人個人で意見を述べてもらう機会があっても良かったとも感じた。
- ・ラウンド終了後も話が終わらないくらい盛り上がって、非常にいい会だったと思う。市長が最後まで、市民と一緒に参加してくれたので良かった。
- ・こうした意見を述べる機会を継続して行ってほしい。
- ・当日配布資料を見てから市民の方から質問がでた。質問に答えられるようなことも考えておいた方がよい。
- ・ホストとしてのマネジメント能力が問われる機会であった。テーマを具体的にするなど話しやすいテーマ設定も考えた方がいいのではないか。
- ・こういった経験は初めてだったがとてもよかった。各ラウンドが短いと感じた。また、各ラウンドに入る前のイントロダクションを工夫した方がいいと思う。この反省を次にいかしていくと有意義だ。
- ・長い時間であったが盛り上がった。今後の課題としては、たくさん出た様々な意見をどのように具体化していくかということである。
- ・小金井市が好きだ、市民の意識が高いという意見が多く出た。発言者カード（こきんちゃんの紙コップ）があったのは、（発言者を特定でき、進行をコントロールできたので）良かった。
- ・短い時間だったが、凝縮されてあの紙面に表現されていたと思う。意見1つ1つが計画の中に反映しましたとわかるような標記をするのは難しいと思うが、出てきたキーワードは、どこかに反映して記載すべきだと思う。
- ・まちカフェ終了後、市長と話したが、非常に良い会だったとおっしゃっていた。市民が日頃考えている、抱えている意見が出たと思う。
- ・出てきた意見は、大体大きな概念の中に包摂されていたが多かったが、具体的な個別的な意見は長期計画には書けないかもしれないが、今後の個別計画などにいかしてもらえばいいと思う。
- ・写真撮影はしていたが、あの雰囲気伝えるためには、動画があってもいいのではないかと思う。

○起草委員会ごとの討議

- ・別紙のまとめのとおり。
- ・計画の推進については事務局で検討することとした。

2 長期計画審議会からの意見に対する後期基本計画（案）への反映について 《資料19》

○事務局より資料をもとに説明した。

○主な意見

- ・ 次回の起草委員会で気になる点について議論したい。
- ・ 実現可能なものは実現して、それ以外は、分野別個別計画や5年後の長期計画審議会での取扱いなどになるのではと思っている。
- ・ 江戸東京野菜の記述について、表現を修正願いたい。
- ・ 江戸東京野菜については、一時的なブームに近いものがある。生産性などを考慮して、種苗会社が切磋琢磨して今の野菜ができたという現実もある。
- ・ 美術館に関して、運営協議会から出ている文書を確認して、回答いただきたい。

【決定事項】

- ・ 次回の起草委員会（7/21 文化と教育、7/27 環境と都市基盤、7/28 地域と経済、7/30 福祉と健康）で一定議論し、中間答申前に、再度審議会を開催し、委員全員でオーソライズし、中間答申とする。

3 その他

他の起草委員会に出席したい場合はオブザーバーとして参加可能である旨確認した。

～以上で会議終了～

(別紙) 起草委員会ごと結果の意見発表まとめ

※会長のレジюмеをもとに、各起草委員会で意見交換し、結果を発表した。

○環境と都市基盤

1. 全体を一言で表すと

『つながり』

- ・市民は、市政に対する意識が高く、行政に対して意見表明をする機会を求めている。
- ・市民団体等が多くあるにも関わらずの認知度が低いため多くの市民が知らないといった問題点もある。市民団体等の認知度を高めていくとともに、意見表明可能な場を多く作っていくこと、またそのような場の周知が必要である。

2. 各起草委員会の理解(今までの議論の内であった。新たな視点があった。)

(1) 大枠では今までの議論に包含されるが、その中での新規アイディア

- ・小金井市は坂道が多く歩行が大変なので、バリアフリーの観点から坂道にエスカレーターや場合によってエレベーター等をつくれぬか。
- ・駅前に、看板が派手等の理由で街の景観に合わない店舗がある。買い物には便利であるが、景観に配慮するよう働きかける必要があるのではないか。

(2) 大枠で新たな視点があったか。その内容。

1. 今回の長期審議会内のもので反映できるもの

- ・武蔵小金井駅前の地主保有の農園を、個人の持ち物という問題点はあるが、珍しいもののため、これを保全し、他に新たな利用余地がないのかを模索しながら積極的に活用していくことはできないか。
- ・特区を設定し、行政と市民双方から積極的にアピールしていくことが重要ではないか。都市整備を推進しつつも、小金井市の牧歌的な雰囲気を残していく方法を模索していく必要がある。具体的には、農地を残すための手段として、別途財源確保する必要は生じるが、税金特区として農地の相続税をゼロにすることや、ドバイのように市民税がゼロにするなど施策が考えられる。

2. 5年後の長期計画審議会へ引き継ぐもの

- ・市のイメージアップのため駅名を変えるのはどうか。なお、過去に「東小金井駅の名前を変えることに賛成か否か」といったアンケートとった際、4割賛成、3割反対、3割がどちら

でも良いとなった。「東小金井駅の名称を小金井公園駅へかえるのに賛成か否か」聞き方を変えると賛否割合が変わることが予想されるため、この結果には留意が必要である。

東小金井駅→小金井公園駅へ／新小金井駅→野川公園駅へ

○地域と経済

1. 全体を一言で表すと

『Cho田舎小金井(ちょいなか こがねい)』

- ・小金井の良いところは、大都会ではないが、ある程度の物は揃っており、住環境が良い。
- ・『Cho田舎小金井(ちょいなか こがねい)』をキーワードに、世代を超えてつながりを重視するべきではないか。

2. 各起草委員会の理解(今までの議論の内であった。新たな視点があった。)

(1) 大枠では今までの議論に包含されるが、その中での新規アイデア

- ・新規アイデアは特になし。既存のものに付け加えていく方針である。

(2) 大枠で新たな視点があったか。その内容。

1. 今回の長期審議会内のもので反映できるもの

- ・特になし

2. 5年後の長期計画審議会へ引き継ぐもの

- ・特になし

○文化と教育

1. 全体を一言で表すと

- ・ワールドカフェは良い取り組みであった。一方で、市民参加の機会がこれで終わりなのか疑問が生じている。ようやくスタートラインにたち、市民の声を聞くドアが開かれたのでこのような機会を増やして行くべきである。

・1回きりであると、ガス抜きで終わってしまう可能性がある。

2. 各起草委員会の理解(今までの議論の内であった。新たな視点があった。)

(1) 大枠では今までの議論に包含されるが、その中での新規アイデア

・坂が多いのは景観上はメリットでもある。よって、景観文化の形成に取り組むべきではないか。

・起業文化も育てる土台作りを推進していく必要があるのではないか。

(2) 大枠で新たな視点があったか。その内容。

1. 今回の長期審議会内のもので反映できるもの

・坂の景観保全

・屋敷林の保全

・市の斎場の確保が必要

2. 5年後の長期計画審議会へ引き継ぐもの

特になし

○福祉と健康

1. 全体を一言で表すと

『水・緑・空気がきれいで住みたい町』

・未来像:子どもを産み育て、学びと親の仕事の両立が一つの街で完結するのが理想

・市内に定着する産業が必要である。保育士の質の高さ、ジブリ、地場野菜、おしゃれなお店などがあるため、積極的に全国区でアピールすることで産業分野を振興する必要がある。

2. 各起草委員会の理解(今までの議論の内であった。新たな視点があった。)

(1) 大枠では今までの議論に包含されるが、その中での新規アイデア

・高齢者はまちに貢献したいという思いはあるが、何をしよういかわからない。高齢者が活躍できる機会をつくるべきである。

(2) 大枠で新たな視点が合ったか。その内容。

1. 今回の長期審議会内のもので反映できるもの

- ・「絆づくり」「つながりあいたい気持ち」を形にする。まち会と称して BBQ などの機会を設ける必要がある。
- ・斎場を作ることが老後の安心につながるの必要ではないか

2. 5年後の長期計画審議会へ引き継ぐもの

- ・相続税特区にして、屋敷や屋敷林を守る。そこを若い人たちの SOHO にリニューアルすることで、産業の定着にも有用な施策となるのではないか。
- ・行政自身も、まちづくりに関し「市民に自由に行動させること＝投資だ」と考えるようにし、「市民に任せる(市民がやりたいことがあれば、ある程度自由にやらせる)」ことを意識してほしい。行政自身の考え方の転換が必要である。